

2026年5月20日(水)午前9:00からCRTスタジオで収録

「高齢化社会の論語の読み方、『75にして、学に志す、100にして矩(のり)をこえず』」

開倫塾

塾長 林明夫

Q 現在10歳の人半数近くが、105歳まで生きながらえるといわれています。このような超高齢社会における「論語」の学び方は何ですか。

A (1)例えば、「論語」は、2500年前に活躍した「孔子」の教えを、弟子たちが、499の文章にまとめたものといわれています。人徳優れた「君子」になるにはどうしたらよいかを学ぶのに最もふさわしい「古典中の古典」の一つと考えます。

(2)この「論語」は、学べば学ぶほど奥が深く、味わい深いものです。

(3)もし、現在10歳の人半数が、105歳まで生きながらえるのでしたら、もう一度、「論語」を読み直すのも、生き方の一つ、「よく生きる」のに役立つと考えます。

Q 例えば、「論語」を、どのように読み直したらよいのですか。

A 「論語」に、次のような教えがあります。

「子(し)曰(いわ)く、

・孔子が言った。

(1)吾(われ)十有五(じゅうゆうご)にして、学(がく)に志(こころざ)す。

・私は、十五歳で学問にこころざし、

(2)三十にして立つ。

・三十歳で、思想も見識も確立した。

(3)四十にして惑(まど)わず、

・四十歳で、心の惑いもなくなり、

(4)五十にして天命を知る

・五十歳で、天から与えられた使命を自覚した。

(5)六十にして、耳(みみ)順(したが)う、

・六十歳で、何を聞いても耳にさからうことがなくなり、

(6)七十にして、心の欲する所に従えども、矩(のり)をこえず。

・七十歳になると、自分の欲望のままにふるまっても、その行動が道徳に外れることはなかった。

(史跡足利学校編「論語抄」より、須永美知夫先生の通釈を参照させていただきました)

Q この有名な章を、どう学び直せばよいとお考えですか。

A 70歳から、もう一度、「論語」を「学び直し」、第2ラウンドに「挑戦」する。

<たとえば>

(1)吾、七十有五にして学に志し、

(2)八十にして、立つ。

(3)八十五にして、惑わず、

(4)九十にして、天命を知る。

(5)九十五にして、耳順う。

(6)百にして、矩をこえず。

○このように、「第2ラウンド」は、75歳から、超スピード、「5年刻み(きざみ)」で「論語」の教えに挑戦するのも人生！

「第1ラウンド」は0歳から70歳まで、第2ラウンドは70歳から105歳までと考え、「第1ラウンド」でじっくり学んだ「論語」を、「第2ラウンド」では、「5年刻み」、スピードを上げて学ぶのも、「一興(いっきょう)」、「趣(おもむき)深い」と考えます。

○「論語」の「499章」も、70歳から105歳まで、35年かけて、ゆっくり学び直す！

○一度読んだ古典や、ご自分にとり大切な本を読み直すと、素晴らしい発見があります。

*ぜひ、チャレンジ、ご挑戦ください。